

現代神楽「スサノヲ頌歌」初演

本條流三味線の第50回東京公演「やさしい国に凜々(れんれん)とて候」が9月5日、東京・半蔵門の国立劇場で開かれる。

三味線奏者の本條秀太郎は中学1年生で茨城県から上京し、長唄、民謡、端唄などを習得。26歳で三味線音楽の本條流を創始した。2003年度の芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。民謡や端唄など土着の芸能に造詣が深く、その粋を集めた邦楽の流派「俚奏楽」を作り、半世紀近く演奏活動を続けている。秀太郎が創作し、今回が初演となる現代神楽「スサノヲ頌歌」は、古事記、日本書紀に登場する神話の世界を題材にした俚奏楽の作品だ。イ

* 本條流三味線の東京公演



ザナギ、イザナミによる国造りに始まり、姉のアマテラス大神を激怒させ天界から地上へと追放されたスサノオが、ヤマタノオロチを退治してクシナダ姫を助け出し、2人で暮らしたという一生を50分程

度仕上げた。

セリフはなく、三味線、琴、尺八など邦楽楽器とパーカッション、シンセサイザーなどとの合奏をベースに、秀太郎や女優の島田歌穂の歌、さらに舞踊で表現しており、「見どころ、聴きどころは満載」という。

ほかにも、「本條流スーパー民謡絵巻」と題し、歌手の金沢明子、高橋キヨ子、成世昌平らが全国の民謡、民俗芸能を歌や三味線で披露するほか、江戸情緒豊かな端唄との3部構成。

秀太郎は、「僕は三味線の可能性をずっと探ってきた。止まることはない」と話している。

演奏会は午前11時と午後4時半開演の2回。☎03・3303・5180。